



学校だより



7月号

令和5年6月29日
横浜市立善部小学校
校長 朝川 健太郎

「リフレーミング」

校長 朝川 健太郎

梅雨に入り、曇りや雨の日が続いています。天候が悪いと心なしか気持ちも晴れ晴れとはしないもので、梅雨明けが待ち遠しい今日この頃です。しかし、農作物が育つには雨は必要ですし、雨が降ることによって飲料水が確保できていることを考えると梅雨も我々の生活を支えるためには必要不可欠なものです。嫌だなあとすることも見方を変えると嫌だと思わなくなることがあります。そうやっていろいろな角度から物事を見ていくと新しい発見があるかもしれません。



このような考え方を「リフレーミング」といい、学校の授業でも取り入れることがあります。人は失敗するとネガティブに考えがちです。また自分の性格を書かせると短所ばかりを書く児童も少なくありません。「人にすぐ合わせてしまう」「落ち着きがない」「勇気がない」などです。ここでリフレーミングを行います。「人にすぐ合わせてしまう」とは見方を変えると「協調性がある」ということです。「落ち着きがない」は「好奇心旺盛」、「勇気がない」は「何事にも慎重」と考えれば長所とみることができます。このようなことを繰り返し行うことで、自分に自信が持てるようになり自己肯定感が高まるのではないのでしょうか。

さて、本年度善部小学校では、「ICTを活用した授業づくり」をテーマに重点研究を行っています。児童が主体的に問題解決に取り組み、わかる喜びを得られるために、授業の中でどのようにICTを活用すればいいのか。職員同士で互いの授業を見合ったり、外部から講師を招いたりして研究を進めています。これまで5月と6月に講師を招いて授業を伴った研究会を行いました。5月には6年生の国語「短歌を作ろう」の単元においてロイノート(授業支援アプリ)を使って短歌作りを行いました。6月の1年生の授業では公園で撮ってきた写真をもとに話し合い、5年生は合同な三角形のかき方をタブレットの画面上で友達に説明していました。



GIGAスクール構想によって児童1人に1台のタブレット端末が配布され、今までの教科書とノートを使っていた授業からタブレットを活用しながらの授業へと転換しようとしています。教員には、授業に対する意識改革とさらなる教材研究が求められます。まさに、今までの授業の枠組みを変えて、別の視点で捉え直す「リフレーミング」が必要となります。コロナによって急激に進んだGIGAスクール構想ですが、授業改善のチャンスが与えられたと捉え、よりよい授業を目指していきます。